

ウナギ、カニがわいい

木城小で触れ合い体験

26.8.8

宮日



ウナギを懸命に捕まえる木城小の子どもたち

小丸川漁業協同組合（前田和則代表理事）は7日、ウナギとモクズガニの触れ合い体験を木城町・木城小で実施した。1年生48人が水生生物との触れ合いを通して、河川愛護意識を高めた。

同組合がウナギ8キとモクズガニ20キを用意。生きている水生生物に触れるのは初めてという児童もあり、皆、水槽の中で泳ぎ回る生き物に興味津々。水槽の中に手を入れると、しきりに動くモクズガニのはさみやヌルヌルと滑るウナギの体に初めは悪戦苦闘していたが、最後には「かわいい」「気持ちいい」などと歓声を上げて捕獲に挑戦していた。

参加した池田夏葵さん（7）は「初めは少し怖かったけど、びちびち動いていてかわいかった」と喜んでいった。同組合は毎年、町内の高城橋下で放流体験を実施。今年は小丸川が増水していたため放流体験は行わず、児童が触れ合った後に同組合幹部でウナギとモクズガニを放流した。

26.8.8 宮日